

大学人登壇

日本の国立大学は今年四月から独立行政法人に移行した。一方、地方公共団体が支える全国初の公立大学法人として国際教養大学(秋田県河辺郡雄和町)が新設された。世界中から教職員を公募するなど新しい試みが話題を呼び、初年度入試後期日程の倍率は四十五倍にも達した。国際教養大学の特色と今後の展開について学長の中嶋嶺雄氏に聞いた。(文中敬称略)

—公立大学の独立行政法人にはどのような特徴があるのですか。

国際貢献を視野に

地方自治体と連携

中嶋 「地方の時代」の今、公立大学は地方自治体と連携して小回りがきき、地域の要望に応えていく責任があります。同時に、子どもの大学は、県内の地域貢献だけ

でなく、国際貢献を視野に置き、日本全体の国際化の拠点となることを目指しています。一学年の定員は百人とし、徹底した少数精鋭の教育を行います。いわば松下村塾の現代版として、新しい時代を担うにふさわしい人材を養成し、教職員は公務員ではなく、職員は公務員であり、松田空港にも近く、先

ていきたいと考えています。大学の立地する雄和町は豊かな自然に囲まれ、地方の文化に直接ふれられるところです。こういう環境こそ、新しい教育を行う上で大事だと思っています。また、国際教養大学で

は秋田空港にも近く、先ほどの、ふれましたように、ロケーションは抜群です。ニューハンプシャーのよっぽう環境だともいわれています。森があり、原野があり、スポーツ施設があり、そういったなかで新しい「大学町」を創



国際教養大学学長
中嶋 嶺雄氏
なかじま みねお
中嶋 嶺雄

市教授。1998年(昭和73年)から現在まで、松田空港の国際教養大学(現アトフ空)の学長として勤務中。1977年(昭和52年)から1998年(昭和73年)まで、国際教養大学の学長として勤務中。1977年(昭和52年)から1998年(昭和73年)まで、国際教養大学の学長として勤務中。

中嶋 嶺雄氏は、1936年(昭和11年)秋田県雄物川町生まれ。1957年(昭和32年)秋田大学文学部卒業。1961年(昭和36年)東京大学大学院経済学研究科入学。1963年(昭和38年)同大学院修了。1965年(昭和40年)東京大学経済学博士(学位論文「日米貿易関係の理論と政策」)。1967年(昭和42年)東京大学経済学教授。1998年(昭和73年)から現在まで、国際教養大学の学長として勤務中。

(右より)めの学術英語のスキルを学びます。英語の力は国語力も反映しますから日本語表現スキルを一年生から必修とします。

第二に、全学生に留学経験をさせます。当面は中国がアメリカです。学生は、留学のための授業料は必要ありません。また、私自身がアジア太平洋交流機構(UMAP)の国際事務局長を務めていますので、UMAPが開発した単位補充システムを用いて、自動的に単位が補充できたり、アメリカや中国の大学のカリキュラムを日本でも作成したりと、柔軟な対応をします。

第三に、本学の場所から全員個室の寮に入りま

研究があります。日本研究は留学生を対象にしますが、日本人も履修できるように、日本語教育を重視しています。一留学生は英語と日本語が同時に習得できるようにします。

中嶋 嶺雄氏は、日本語はできるが英語ができない、という特徴があります。しかし、それは卒業生の本人の国際貢献の場面が限定されてしまっています。ですから、日本語が得意なこともイコール英語が得意なようにしたいので、ロシア、中国からは

第三に、本学の場所から全員個室の寮に入りま

中国側にも課題があります。それは、「日本語試験」を中国現地で行わないことです。日本語は日本に来たから勉強すればいい。「日本語試験」は日本語が事前に行われている状態から勉強する必要があるという考え方です。そういった現状を改善するために日中は協力すべきです。現在の対症療法では、根本はよくならないと思います。

能力のある学生は日本の大学に入学してから朝から晩まで日本語を勉強すればいいのです。その時、誰が日本語を教えるのか。まさに日本語の先生です。しかし、日本語教師の量も処遇も足りない。日本語教師の養成は大いに必要になります。



中嶋 嶺雄氏は、日本語はできるが英語ができない、という特徴があります。しかし、それは卒業生の本人の国際貢献の場面が限定されてしまっています。ですから、日本語が得意なこともイコール英語が得意なようにしたいので、ロシア、中国からは

「日本語教育の関連課程はどのようになっているか。」

第一に、全学生に留学経験をさせます。当面は中国がアメリカです。学生は、留学のための授業料は必要ありません。また、私自身がアジア太平洋交流機構(UMAP)の国際事務局長を務めていますので、UMAPが開発した単位補充システムを用いて、自動的に単位が補充できたり、アメリカや中国の大学のカリキュラムを日本でも作成したりと、柔軟な対応をします。

第三に、本学の場所から全員個室の寮に入りま